

「子どもの心と姿」

令和5年5月1日

先週、24日(月)。とっても嬉しいことがありました。各教室を廻っていたら、休み時間となりました。この時、たまたま居た場所が4年生の教室前。ある女の子が近づいてきてこう言いました。「いつもみんなのために見守ってくれてありがとうございます。これからもお願いします。」と。そう言ってくれた子は4年2組のKさんです。驚くと同時に、とても嬉しい気持ちになっている自分に気がきました。Kさんが私に語った言葉は「感謝」の言葉です。4年生ですから誕生日を迎えたとしても10歳です。10歳の子にあと数年で退職をする私が嬉しくなるのですから、「感謝」の言葉が持つ力を改めて感じました。



私たち教師は、子ども達に「感謝」の言葉を伝えているでしょうか？指導の言葉として「～しなさい。」「～するな。」とはよく言うものの、子ども達が行っているお掃除や当番、委員会活動など、あるいは、よく立ち歩きをする子が席に座っていたのなら「ありがとう」や「嬉しい」「あなたのおかげです」などと、いわゆる「アイ・メッセージ」を送ることが大切だと思うのです。「えらい」「すごい」の誉め言葉はどこかしら上から目線で、子どもと教師の関係性は縦関係。従う者と従わせる者との対立関係になったりします。勿論、いじめや命に係わることは理屈抜きで毅然と対処する必要がある場合もあります。

昨年度、「生徒指導」の指針が示された「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂されました。「令和時代の生徒指導」として管理型の「直す」指導から支援型の「育てる」指導へと変わったのです。私は、この「育てる」指導に賛同します。そして、この「育てる」の考え方の根底には、「正しく判断し行動する力」を育てることが含意されていると考えています。私は、よく、子ども達に次の言葉を送ることがあります。(与東小ではまだ言う機会がないのですが)「自分がやろうとしていることが、あるいは、やっていることが正しいかどうかを考えることさえできれば〇〇小学校の子は自分で自分を間違った方向に導くことはない。」と。前回の校長通信で、村上和雄先生の言葉に触れながら「正しく、望ましい結果は、正しい心・正しい行為によってもたらされる」と書きました。子ども達の心は純粋で、スポンジのように正しいことを吸い取っていきます。逆に、幼さゆえに、「蔑み」「妬み」「ヤッカミ」などのマイナス面の言葉も吸収してしまいます。子ども達が発する言葉や姿勢・態度は私達大人の発する言葉、態度の映しなのです。



先だって、子ども達の純真さ、優しさを垣間見る機会がありました。(写真左)医療的ケアが必要なT・Sさんが交流学級に行った時のことです。与東幼稚園から一緒の子は、「Sさんだ」と言って集まり、Sさんの手や足を取り触れていたのです。中には、口を開けているSさんの口元をふき取る子もいました。子どもの優しさに、大げさかもしれませんが、神々しさを感じました。一方で、多分、他園から入学したのでしょう。「校長先生、あの子は、なんで口を開けているの？」と聞かれ、返答に戸惑っていると、「怖い」と言葉をもらしました。私は、この子に何も言ってやるができなかったことを恥じました。折角の教育の機会を逃したのですから。職員室に戻りながら私が考えていたことは、口元をふき取る子の姿も、「怖い」ともらした子も、どちらも正直で純粋な心から出た行動と言葉なのだということでした。子ども達がより良い心と行動をとることができるようになるためには、私達大人の取る行動や言葉かけが大事になってきます。先生方が受け持つクラスの中には、手のかかる子もいると思います。そんな時「どうしてこの子は」「なんでこの子は」と、その子の問題を問いたくなりますが、そうではなくて、私達教師がどうあるべきかを逆に、その子の存在から問われているのです。簡単ではないですが、子ども達の成長のために先生方の力をお貸しください。

